

1. さて、イエスは、悪魔の試みを受けるため、御霊に導かれて荒野に上って行かれた。そして、四十日四十夜断食したあとで、空腹を覚えられた。すると、試みる者が近づいて来て言った。「あなたが神の子なら、この石がパンになるように、命じなさい。」イエスは答えて言われた。「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる』と書いてある。」(4:1-4)
  - a. イエスはヨハネからバプテスマを受け聖霊に満たされた(新たな意味で)直後、御霊に導かれて荒野に行き悪魔の試みを受けられました。すばらしい神の御業を経験するとすぐそこに悪魔がやってきます。
  - b. それにはいくつか理由があります。まず第一に悪魔はあなたに対する神の計画を成し遂げさせたくないのです。そして次に、私たちが生きるこの世界は悪魔によって支配され、あるいは非常に大きな影響を受けているからです。そして神が私たちが祝福し人生に働いてくださり、私たちがより神に似た者となっていくと、自然的あるいは超自然的に、この地における御国と悪魔の影響とがぶつかり合うのです。
  - c. この誘惑は、地上で権力を乱用した天使たち(詩篇 82)と同じようにイエスも墮落するかどうかを悪魔が試みるためのものでした。
  - d. 悪魔は「あなたが神の子なら(3節)」という言い方で切り出していますが、ギリシャ語には4種類の「もし～なら」という文があります。この場合(第一級条件文といわれる)の「もし(Eng. “if”, Gk. “ei”)」は「だから(because)(あなたは神の子なのだから)」という意味で使われています。試みる者はイエスが神の子であることを否定しておらず、それを踏まえた上でイエスに何かをするように命じています。ある意味で「もし神の子ならそれを証明してみよ」と言っているといえます。
  - e. イエスは神のみことばを使うことで権力を乱用することを避けています。イエスははっきりと書かれた神のことばを示し、またそれを引用することで語られた神のことばを示しています。さらに私たちの生命の維持に必要なものは食べ物だけではないともおっしゃっています。
2. すると、悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神殿の頂に立たせて、言った。「あなたが神の子なら、下に身を投げてみなさい。『神は御使いたちに命じて、その手にあなたをささえさせ、あなたの足が石に打ち当たることのないようにされる』と書いてありますから。」イエスは言われた。「『あなたの神である主を試みてはならない』とも書いてある。」(4:5-7)
  - a. イエスは初めから相手が悪魔であることをご存知だったのでしょか? サタンは光の天使としてやってくると聖書は言っています。ここで悪魔が偽の姿で現れたとしてもおかしくはないでしょう。
  - b. 次の誘惑では、みことばを使われたイエスに応答して悪魔もみことばで対抗します。興味深いことに悪魔が引用した詩篇 91 篇は古代でも現代でも霊的戦いの聖句として使われます。
  - c. イエスはみことばをむやみに使ってはいけないと指摘されます。み言葉を正しく使う上で最も重要なのは私たちの心のあり方(動機、目的)です。
3. 今度は悪魔は、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての国々とその栄華を見せて、言った。「もしひれ伏して私を拝むなら、これを全部あなたに差し上げましょう。」イエスは言われた。「引き下がれ、サタン。『あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えよ。』と書いてある。」すると悪魔はイエスを離れて行き、見よ、御使いたちが近づいて来て仕えた。(4:8-11)
  - a. 私個人的にはどうしてこれがイエスの誘惑になるのかわかりませんが、おそらく全世界の贖いを成し遂げる(十字架に向かう)ことはどんなに難しいかということだと思います。拒否、裏切り、むち打ち刑、十字架刑、そして神から見放されるを経験するよりも、近道をしてただ私にひれ伏し拝めばすべてを与えよう、と悪魔は言いました。イエスはそれには応じず、サタンを叱りつけ引き下がるよう命じました。イエスはサタンを無視するのではなく、離れていくように命じました。
  - b. イエスの公生涯の前に聖霊はイエスを荒野へと導きプライベートな戦いを体験させました。同じように私たちが公の場での勝利の前にまずは個人レベルでの試練に打ち勝つことが大切かもしれません。